

薬物治療を受ける患者の安全性向上や薬剤師の服薬指導の充実を図ろうと、県内市立病院で初めて取り組んだ。肝臓や腎臓などに関わる15項目を表示し、医師だけでなく薬剤師も客観的な数値を確認し、処方適切なさをチェックする。51歳。――取り組みの意義は。「当病院では外来患者の院外処方箋発行率が約93%だが、これまで具体的な検査値が分からないまま、患者の見た目や面談などでの口頭で処方を判断していた。検査値が分かれば、より適切な監査ができ、医療情報の共有にもつながる」

院外処方箋の検査値表示を始めた
磐田市立総合病院の薬剤部長

まさき ぎんぞう さん (磐田市)
正木 銀三 さん



この人

――反応は。「自分の検査値を見て、健康状態を質問しに来てくれた患者さんがいた。数値に興味を持ち、病院や薬局で質問するなど健康意識を高めてほしい」――院外薬局に望むことは。「検査値を確認した上で

の病院への積極的な問い合わせを期待している。病院、薬局、患者の三者が連携した地域医療の充実を目指す」――今後の抱負は。

「残薬問題に力を入れた。家に薬が残っているのに病院などでもらい続けると、医療費の増加にもつながる。古い薬の使用可否など相談に乗ることもできるので、余った薬を病院や薬局に持参してほしい」

◇ 市内のマラソン大会には、救護ランナーとして毎回参加している。
(磐田支局・駒木千尋)